

あ と が き

調査研究の範囲・実施方法でも述べたように、本書は「人間＝人体」と「音」のさまざまなコミュニケーションについて、人体から発生する電気信号と音源という点に主眼を置いて多面的に調査したものである。学術的な調査よりも関連する研究・技術分野の展開・発展の方向、市民生活との接点の調査に重点を置いている。

通産省も「感性豊かな社会」を次代の社会像と位置付けて関連調査を広く推進しようとしているが、この報告書は「音」と人間の生理・精神との関係に着目し、「音」をうまく利用して市民生活をより一層快適なものにする可能性を追及している。人体を対象とした研究分野は未知の領域が立ちのぼる分野ではあるが、ストレス社会を背景に種々の研究成果を先取したビジネスが芽生え、市民生活と係わりを持ちはじめもいる。本報告書はこのような社会背景に対し、何等かのお役に立てればと考えてまとめたものである。

各方面の取材など調査研究に快くご協力頂きました関係各位、及び貴重なご助言を頂きました先生方に厚くお礼申し上げます。又、内容について検討・考察が不十分な点多々あると思われ、至らぬ点などのご教示・ご指導を今後とも宜しくお願い申し上げます。

- 編集・文責（財）サウンド技術振興財団 江澤定明 -